

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

ジオマテック株式会社
create coating solutions

2026年 8月7日

第1四半期業績

単位：百万円	2026.6	2025.6	前年同期比		2026.3	前四半期比	
	1Q / FY27	1Q / FY26	増減	増減率	4Q / FY26	増減	増減率
売上高	1,420	1,359	61	4.5%	1,663	△ 242	△14.6%
営業利益	169	156	12	8.1%	49	119	241.1%
(営業利益率)	11.9%	11.5%	－	－	3.0%	－	－
経常利益	189	164	25	15.8%	72	117	161.6%
四半期純利益	129	158	△ 28	△18.0%	269	△ 139	△51.9%
1株あたり四半期純利益（円）	16.38	19.98	△ 3.60	△18.0%	34.04	△ 17.66	△51.9%
加工高※	1,111	1,105	5	0.5%	1,033	78	7.6%

※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上（付加価値収入）のことです。
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

財務概要

資産の部

単位：百万円	2026.6	2026.3	増減
流動資産	12,083	10,539	1,544
現金・預金	3,349	3,729	△ 380
受取手形・売掛金	5,400	3,997	1,403
電子記録債権	180	284	△ 104
棚卸資産	2,582	2,146	436
その他	571	381	190
固定資産	6,765	5,920	844
有形固定資産	2,023	2,012	11
無形固定資産	160	162	△ 2
投資その他	4,581	3,746	835
合計	18,849	16,460	2,388

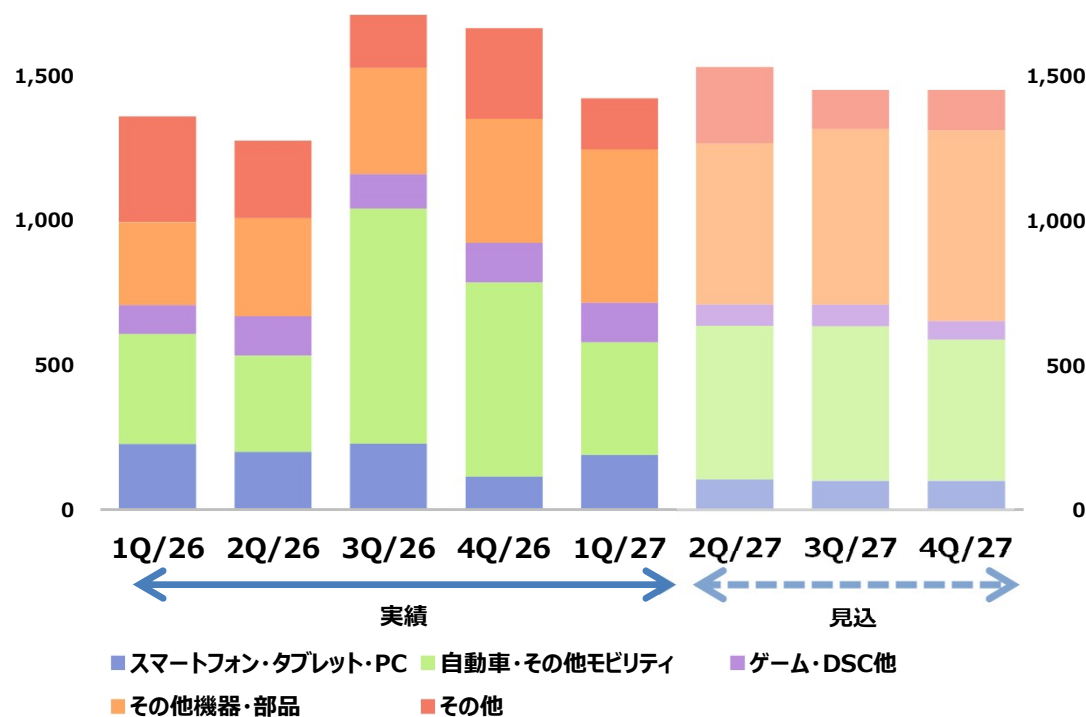
負債・純資産の部

単位：百万円	2026.6	2026.3	増減
負債	8,469	6,416	2,053
買掛金	5,999	3,770	2,229
借入金等	1,643	1,737	△ 94
その他	827	909	△ 82
純資産	10,379	10,043	335
株主資本	9,425	9,295	130
評価・換算差額等	953	747	206
合計	18,849	16,460	2,388
自己資本比率	55.1%	61.0%	△5.9pt
1株あたり純資産 (円)	1,312.13	1,269.69	42.44

四半期売上実績

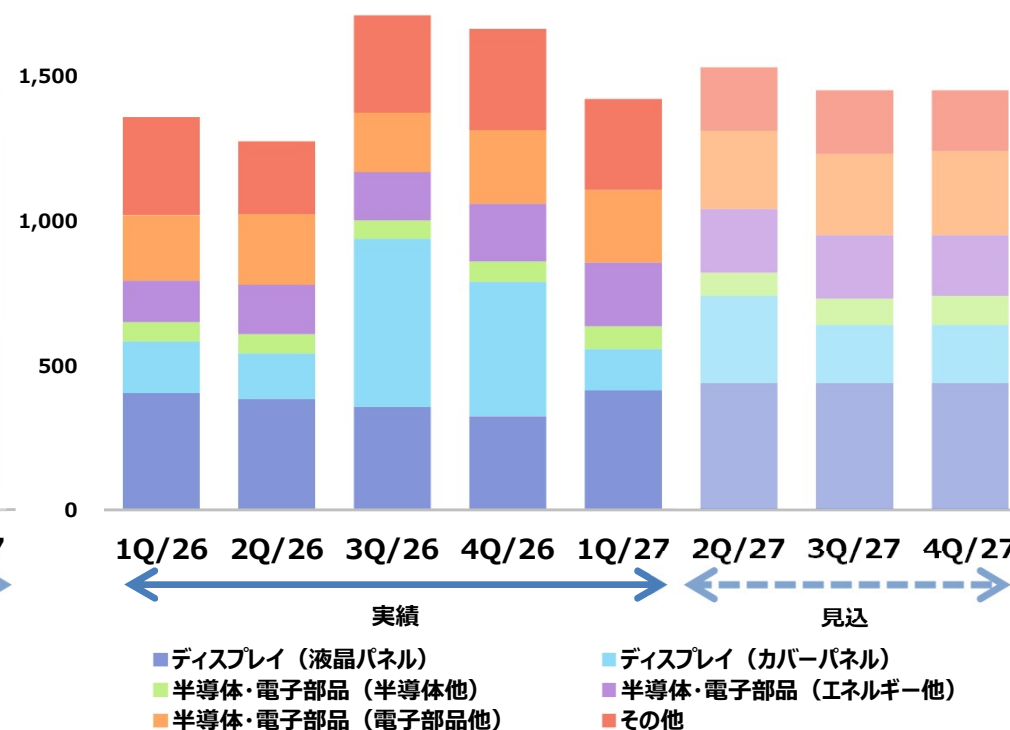
最終製品別売上高推移

百万円



品目別売上高推移

百万円



◆ディスプレイ

- ・ 車載向け液晶ディスプレイパネルの受注は増加
- ・ カバーパネルの受注は減少

◆半導体・電子部品

- ・ 半導体・電子部品向け薄膜製品は、AI関連投資の拡大や産業機器市場の好調を背景に、テストウェハー、産業用プリンターヘッド向け受注が堅調に推移
- ・ 先端デバイス及び次世代技術分野向けの新規試作受託も拡大

◆その他

- ・ g.moth®やg.slip®などのナノ構造体製品の受注は増加
- ・ 成膜加工関連部材の売上は減少

2027年3月期 業績見通し

2026年5月15日に公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想について、最近の業績動向を踏まえ、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

単位：百万円	2027.3			前期比		2026.3
	通期計画	H1 計画	H2 計画	増減額	増減率	実績
売上高	5,850	2,950	2,900	△ 158	△2.6%	6,008
営業利益	500	290	210	158	46.5%	341
(営業利益率)	8.5%	9.8%	7.2%	—	—	5.7%
経常利益	535	308	227	105	24.6%	429
当期純利益	507	264	243	△ 131	△20.6%	638
加工高	4,800	2,280	2,520	538	12.6%	4,262
研究開発費	149	—	—	△ 73	△32.7%	223
設備投資額	700	—	—	524	297.7%	176
減価償却費	300	—	—	121	67.6%	179

経営環境

今後の経済見通しにつきましては、景気は引き続き緩やかな回復傾向にあるものの、地政学的な緊張や米国の貿易政策による国内経済への影響が懸念されることから先行きは依然不透明な状況が続いており、当社の主力製品である薄膜製品は、最終製品の需要動向やサプライチェーンの変化に大きく左右されるものと予測されます。また、デジタルトランスフォーメーション（DX）、人工知能（AI）、ロボティクスの進展により、ビジネスモデルや産業構造そのものが大きく変革され、生産性の向上など、経済全体にも大きな影響を及ぼすことが期待されます。

対処すべき課題

このような経営環境の下、当社はこれまでマーケットインとプロダクトアウトの戦略に基づき、「薄膜技術」を強化し成長を図ってまいりましたが、今後はこの経営志向をさらに発展させ、従来の薄膜技術に加え、顧客ニーズに応じた生産技術の強化と経営資源の最大活用によって顧客の利便性および当社の収益性の向上を目指す「薄膜技術＋生産技術」という当社の強みを活かし企業成長に取り組んでまいります。当社が現在認識している課題と対策は以下の通りです。

1. コア事業の強化

当社の主力製品であるディスプレイなどの薄膜加工製品については、既存設備を有効に活用するとともに、原価低減と価格戦略の見直しを進めることで、収益性および資産効率の改善を図っております。

2. 戦略事業、新規事業の強化

成長が期待される製品・市場に向けて、これまで培ってきた薄膜技術および生産技術を活かし、顧客に対して高い利便性を提供することで事業の拡大と収益性の向上に取り組んでおります。

3. 人的資本の強化

教育制度および評価制度の整備を進め、あるべき姿の実現に向けた人材の確保と組織能力の向上に取り組んでおります。
また、社員がいきいきと活躍できる職場環境の整備を目指し、企業風土改革にも継続して取り組んでおります。

4. 経営基盤の強化

経営の高度化を実現するため、デジタル基盤の強化を進めております。
あわせて、財務基盤の安定と資本効率の向上を図りつつ、成長領域への戦略的投資を推進しております。

・ 情報提供の目的

当サイトの目的は、当社への理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。掲載されている情報は、インターネット上で簡便にご参照いただくために作成されたものです。当社は細心の注意を払っておりますが、掲載されている情報には不測の誤りがある可能性があります。当サイトのご利用により、被害・損害が発生したとしても、当社は一切責任を負うものでないことをあらかじめご了承ください。

・ 将来予測に関する考え方

当サイトに掲載されている情報には、当社の計画、予測など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらは、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断および仮定に基づくものであり、既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、当社の業績、事業活動、財務状況は、見通しと大きく異なる場合があります。

・ 投資判断に対する考え方

投資に関する最終的なご決定は、当サイトの情報に全面的に依存することはお控え頂き、ご自身の判断と責任において行われますようお願いいたします。

・ 情報内容変更等の可能性

当サイトまたは当サイト上のコンテンツは、予告なく変更、修正、削除、中断することがあります。当社は、サイトに掲載された情報を更新する義務を負うものではなく、その約束をするものではありません。当サイトのいかなる情報についても、常に最新情報に反映されるものでないことをご了承ください。